

ひ え い せ き ぐ ん 比恵遺跡群第 125 次調査の成果について

— 弥生時代～古代の集落遺跡の調査 —

福岡市埋蔵文化財調査課は、1月中旬より、博多区博多駅南において、開発事業に伴う記録保存を目的とした調査（比恵遺跡群第 125 次調査）を行ってきました。調査の結果、弥生時代から古墳時代の竪穴住居や掘立柱建物、井戸、貯蔵穴などの集落遺構を多数発見することができました。

比恵遺跡群とは

比恵遺跡群は、福岡平野内の那珂川と御笠川に挟まれた低丘陵の上に立地しており、福岡平野にあったと考えられている「奴国」のなかでも最も海に近い位置にあります（図 1）。これまでの 125 次に及ぶ調査で、この遺跡は弥生時代から古代にかけての有力な大集落であったことが分かってきています。

第 125 次調査の概要

今回の調査地点は、比恵遺跡群の西端に位置しています（図 1）。これまでの調査から、台地の西端においても、弥生時代から古墳時代の集落が密集して広がっていたことがわかりました。確認した主な遺構は、以下のとおりです。

弥生時代（今から 2500 年前～1700 年前）

前期の貯蔵穴、中期の竪穴住居

後期の井戸、掘立柱建物、竪穴住居

古墳時代（今から 1700 年前～1400 年前）

前期の竪穴住居

古墳時代後期～古代

掘立柱建物（倉庫）とそれを囲む柵

※ 実年代についてはさまざまな議論があります。

古墳時代後期～古代の掘立柱建物と柵は、本調査地点の東隣に位置する国史跡「比恵遺跡」(※1)で発見された建物群に関連する可能性があります。今回、掘立柱建物と柵を確認した範囲は事業者様のご理解とご協力により、埋め戻した上で保存されることとなりました。

また、弥生時代の貯蔵穴や竪穴住居、井戸などからは、多数の土器、石器が出土しました。とくに、弥生時代後期の井戸から出土した小銅鐸(※2)は、有力な大集落から出土することが知られていますが、福岡市内では5遺跡7例目の発見となります。

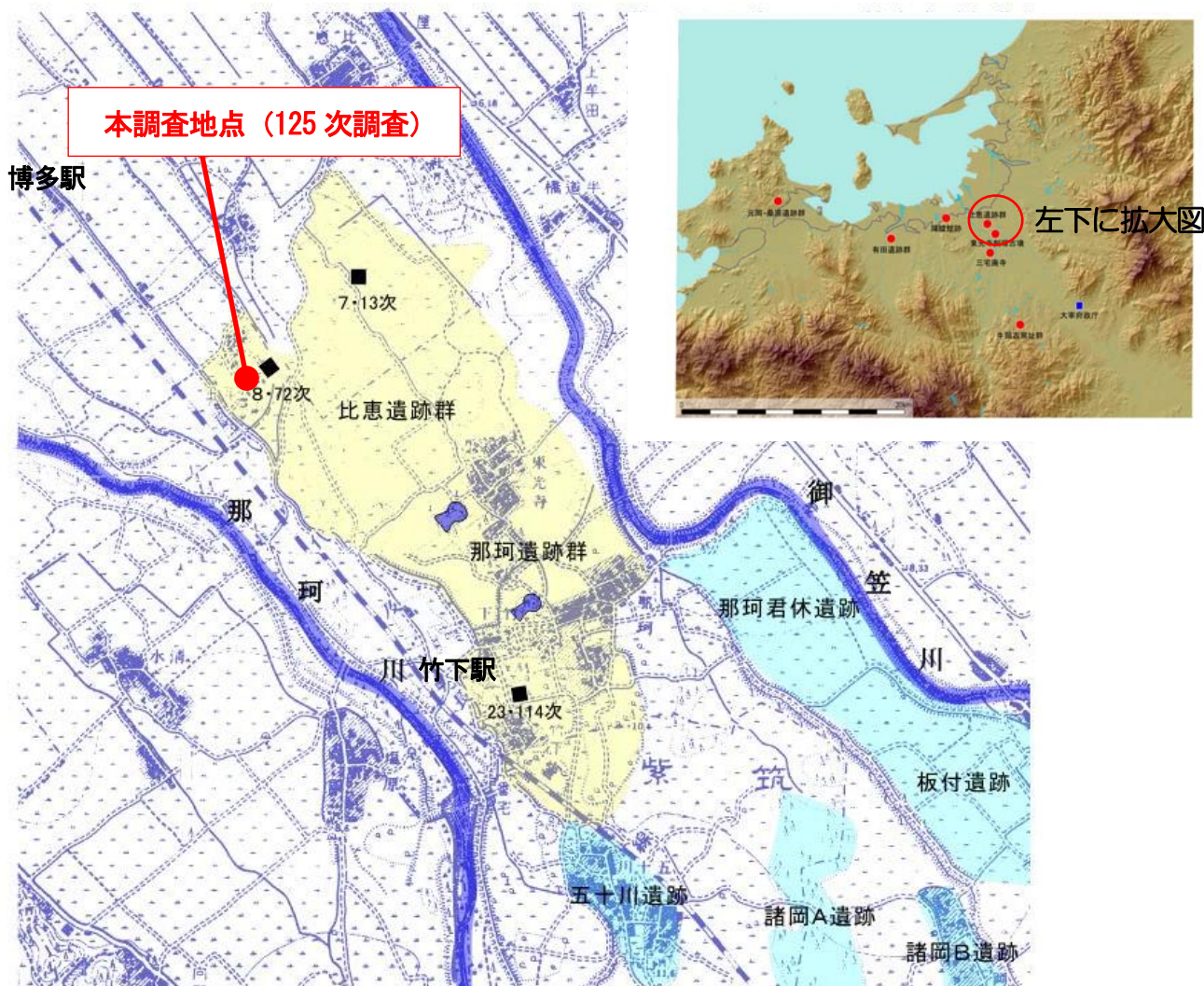


図 1 比恵遺跡群第 125 次調査地点の位置

※1 国史跡「比恵遺跡」とは？

福岡市が 1984 年・2000 年に行った発掘調査によって、合計 10 棟の掘立柱建物の倉庫群と、これを囲む柵が発見され、2001 年に国史跡「比恵遺跡」に指定されました。これらの遺構は、『日本書紀』に記述のある「那津官家（ナツノミヤケ）」に関わる施設と推定されています。「那津官家」は、日本書紀の記載によれば、西暦 536 年に博多湾岸につくらせた食料を備蓄するために造らせた施設とされており、後の大宰府の前身という説もあります。

※2 小銅鐸とは？

日本で出土する銅鐸形の小型青銅製品の多くは、朝鮮半島で製作・使用されていた朝鮮式小銅鐸を模倣して、日本で作られたものと考えられています。有力な集落から出土することが多く、祭祀に用いられていたと推測されています。

【 弥生時代前期 】
貯蔵穴
※ 方形のものと円形のものがあります

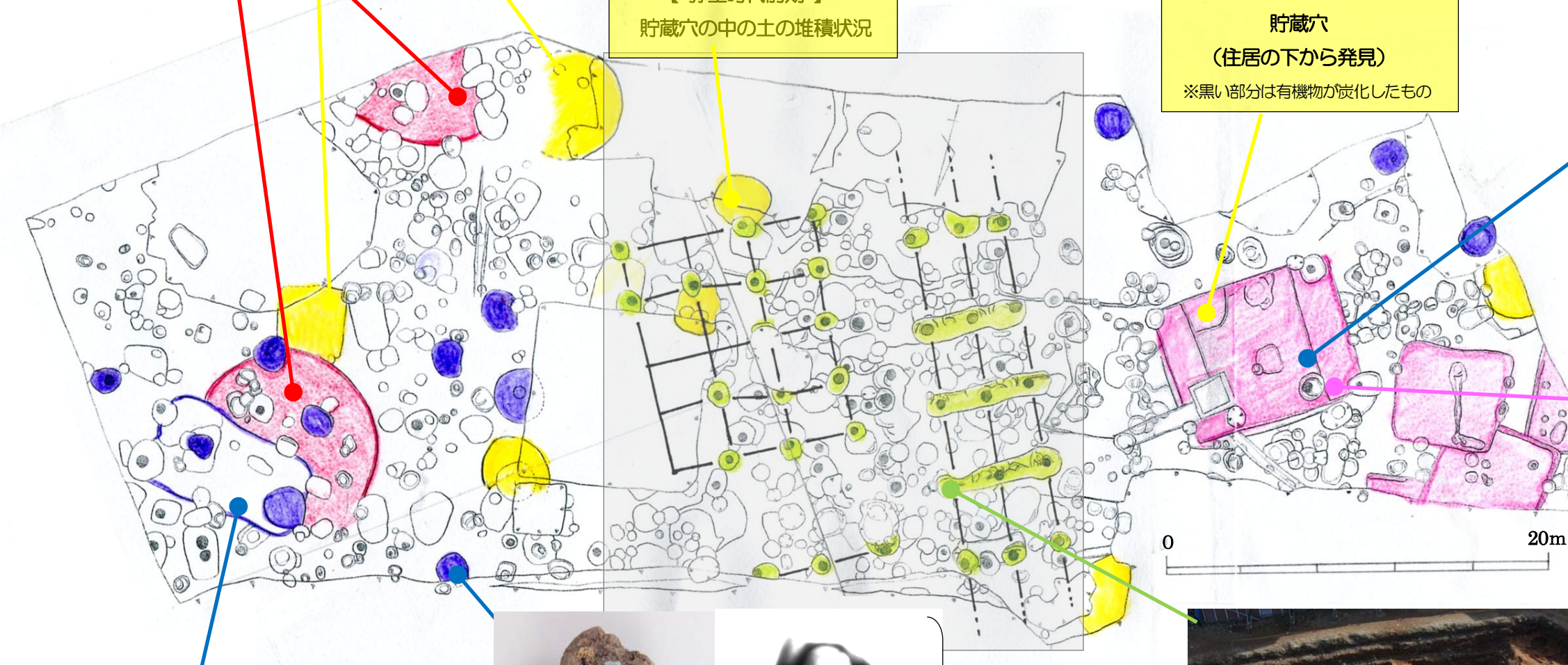


【 弥生時代中期 】
竪穴住居

【 弥生時代前期 】
貯蔵穴の中の土の堆積状況

【 弥生時代前期 】
貯蔵穴
(住居の下から発見)
※黒い部分は有機物が炭化したもの

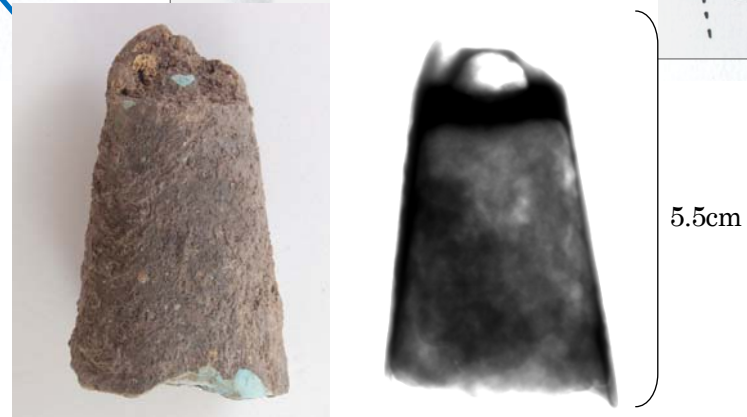
【 弥生時代後期 】
井戸
(住居の下から発見)



【 弥生時代後期 】
竪穴住居

【 古墳時代前期 】
竪穴住居

の部分は事業者様のご理解、ご協力により、埋め戻した上で保存されることになりました。



【 弥生時代後期 】
井戸から出土した小銅鐸
ここから出土しました



【 古墳時代後期～古代 】
掘立柱建物 (倉庫) + 柵